

アラブ首長国連邦、オマーンの植物誌（１）～ 砂漠の菜の花畑

オマーンの北部、UAE国境に近いハジャー山系は、オマーンスタイルのオアシスの点在する比較的水に恵まれた地帯です。しかしながら乾季の気温は50度に達し、石はどれも太陽に焼かれ黒くなり、アカシアの木が熱に耐えるように立っているといった光景が広がる厳しい土地です。今年の冷涼季も昨季同様かなりの降雨に恵まれ、山から続く扇状地はうっすらと緑みをおび、特にアカシアやその他の木の下、あるいはちょっとした窪地等にははっきりとそれとわかる程に緑が見えます。木本は新葉を出し、宿根草の多くは根元より新しい芽を出し、一年草は先を争うように発芽し、次々に花をつけます。

それらの一年草は冷涼季の降雨の後にだけ生えるため、特に耐暑性、耐乾性があるわけではなく、また耐塩性があるとも思えません。しかしながらそれはそれで、この地方の気候に高度に適応した性質を有しています。雨の後の限られた期間に花を咲かせ種を作る必要から、発芽したら栄養成長と並行して、さっそく生殖成長を始めます。そして利用可能な水分がある限り次から次へと新しい花芽を着け続け、根系の到達範囲が乾いたところで漸く枯れます。水さえあれば越年の可能な種も多いようです。よって、正確には一年草と呼べないのかも知れません。そう言った一年草の中の類はアブラナ科に多く、特に目を魅くのは、主に山岳部からそれに連なる扇状地に多く見られる、鮮やかな黄の花を付ける *Diplotaxis harra* (写真1)、及び扇状地から更に下って砂丘地帯に入った辺りに多く見られる白い花を付ける *Eremobium aegyptiacum* (写真2) です。両種ともこの地域ではごく一般的に見られ、特に珍しい植物ではありません。しかしながら、一昨年の12月から断続的に降り続けた雨のため、昨年2月の中旬頃に西部ハジャー山系の扇状地のあちこちに現れた *Diplotaxis harra* の大群落は文字どおりの絶景でした(写真3)。また、そのほかのアブラナ科の植物で目に付く物として *Erucaria crassifolia* (写真4) 等があります。

今季も昨季並みの降雨量がありましたが、今年は去年のような *Diplotaxis harra* の大群落は見る事ができませんでした。その最大の理由は降雨季のズレにあると思われれます。昨季の場合、12月から3月まで断続的に降雨があったので、冷涼季の4カ月間常に湿った状態が保たれたのに比べ、今季は1月に少々の降雨があつて、*Diplotaxis harra* の発芽も認められたが、その後3月の中旬まで降雨はなく、一度発芽した物も、既に種を落として枯れてしまい、3月中旬から4月の中旬にかけかなりの降雨があつたとはいえ、新しく発芽するには時既に遅く、その恩恵を受けるには気温が既に上がっていたという事でしょう。この様に安定した気候の望めないUAEのような極地では、年々の気候の変化に植生も大きく影響されますが、そういった条件の中でも、あれほど可憐な菜の花でさえ種を絶やすことなく存続しているという事実は乾燥地を考える場合の一例として面白いと思います。



写真1 (*Diplotaxis harra*)



写真2 (*Eremobium aegyptiacum*)



写真3 (*Diplotaxis harra* の大群落)



写真4 (*Erucaria crassifolia*)